

仙台市駅伝大会に思う

**長町中学駅伝選手団の皆さん、お疲れ様でした
生きていくうえでの自信にしてほしいと思います**

9月4日(水)、仙台市駅伝大会が泉パークタウンを主会場に行われました。本校も男女ともに選手団を編成し、参加しました。惜しくも上位入賞は成りませんでした。大健闘しました。日常活動している部活動としての参加ではなく、自分なりに決意して参加した事に大きな意義があると思います。

「走る」という行為は、気持ちが強くないとできない事ですよ。継続して根気強く頑張り、大会を目指し、そして目標を設定して、できるだけタイムを縮めて走ろうとする事、「駅伝チーム」に参加して、この夏頑張ってみようという気持ちや決意、そこに自分の身を置くという事が出来そうで、なかなか出来ない事だと思うのです。

多くの仙台市内の中学校が参加していましたが、本校の生徒だけではなく、あれだけ多くの生徒達がこの大会に参加している事はとても素晴らしい事だと思います。私が観戦していた横で、ある中学校の女子選手達から「大丈夫。よく頑張ったよ。順位なんか関係ないから。」という声が聞こえてきました。区間上位でタスキを繋いだものの、順位を落としてしまって泣いていた後輩の選手にみんなで声掛けしていたのだと思います。

練習をしっかり積んでレースや試合に臨んでも、その日の体調や気温・湿度、精神的な要素等で、力量を発揮できないで終わってしまう場合もあります。逆に本人が思ってもいなかった成果を残せる場合もあります。駅伝だけではなく、部活動の試合やコンクール、コンテスト、そして定期テスト等も同じですね。自分なり成果を残そうと思ひ、最大限の努力をして準備しても、すべて上手くいくわけではありません。それでも人間は、自分の記録や点数や夢を叶えようとして頑張ろうとします。

よく考えてみると、生きていく事自体が、そのような事の繰り返しなのかもしれません。気持ちを強く持って頑張れる時もあります。でも、頑張れず立ち止まってしまう時もあります。長い期間立ち止まってしまう場合もあります。私自身も長年生きてきた中で、嫌になって諦めたり、後ろ向きになったり、泣きたくなるくらい悲しかったり、でも嬉しい事もあったりと、その繰り返しです。そんな時に、上記の女子駅伝チームのように、励ましてくれる友達がいたり、寄り添ってくれる人がいたり、人には分かってもらえなくても本の世界で励まされたり、音楽で癒やされたり、その繰り返しです。

秋～冬季の駅伝シーズンになると大きな大会がテレビ放送され、私達はその姿に魅せられます。ひょっとすると知らず知らずのうちに、苦しくても頑張っている姿に、自分を重ね合わせているのかもしれないね。

長町中学校の駅伝チームの皆さん、本当にお疲れ様でした。苦しい練習を乗り越えて取り組んだ事に大きな意義があると思います。そして皆さんが、この暑い夏に一つの目標を持って挑戦できた事に自信と誇りを持ってください。私も応援できて、とても嬉しく感じました。